

# 農学

キャリア

新人  
**新採用**  
1年目

若手  
**技師級**  
2～10年目程度  
(20～30代前半)

中堅  
**主任級**  
(主任農業普及員 等)  
10～15年目程度  
(30代中盤～)

サブリーダー  
**主査級**  
(主査農業普及員 等)  
15～20年目程度  
(30代後半～)

グループリーダー  
**主任主査級**  
(上席農業普及員 等)  
20～25年目程度  
(40代中盤～)

管理監督者  
**担当課長～**  
25年目以降  
(40代後半～)

主な職名：農業普及員、専門研究員、講師 等

主な配置先：農林水産部各室課、広域振興局農政部・農林部（各振興センター）、農業改良普及センター、農業研究センター、農業大学校 等

県職員としての土台づくり。  
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務  
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務  
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。  
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県  
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で  
組織をマネジメント。

必要な知識・能力・役割

- 【技師】
- 普及活動に必要な基本的な知識・技術・手法（普及員指導資格の取得）
- 【農業普及員】
- 作目分野及び担当業務（共通分野）における課題解決に必要な知識・技術・手法（スペシャリスト機能を活かした課題解決能力）
- 【研究】
- 研究に必要な基礎技術、新規課題の提案、研究成果報告書の作成能力

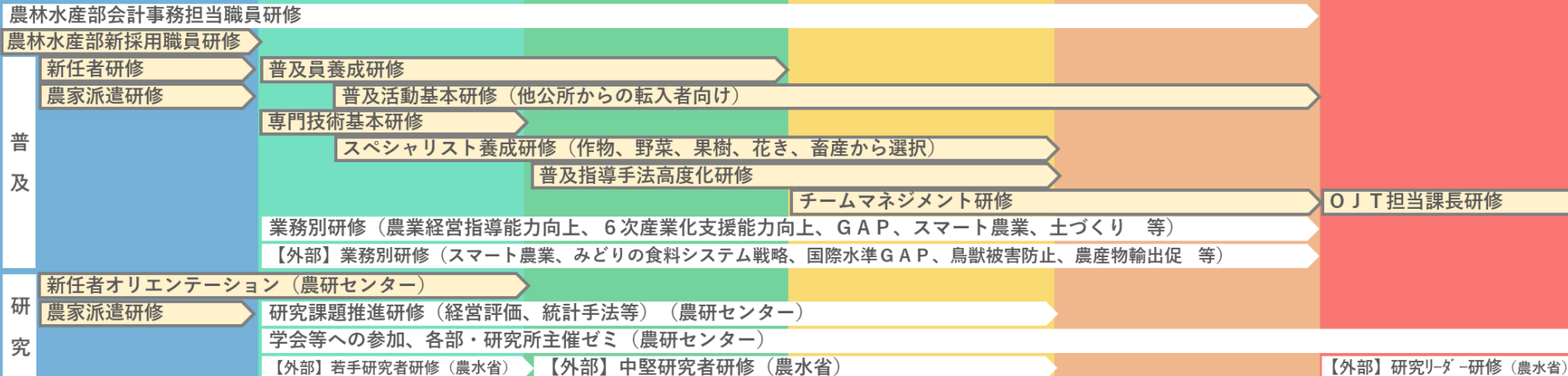
- 【普及】
- 作目分野及び担当業務（共通分野）における関係者と連携した地域課題の解決に必要な知識・技術・手法（スペシャリスト・コーディネート機能を活かした地域課題解決能力）
- 【研究】
- 研究に必要な技術、統計処理手法、経営評価手法の習得、新規課題の提案や研究成果報告書の作成、他の研究機関との共同研究を実施できる能力

- 【普及】
- 地域課題解決に必要な知識・技術・手法及び管理調整力、若手職員育成力、普及活動の企画・調整・指導力
- 【研究】
- 自由度の高い試験研究の企画力、若手研究員への指導力

- 管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- これまで培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- 人材育成能力

若手職員の配置  
高い専門性を養うため、比較的長いスパンでの育成期間を設定。行政、普及、研究の各部門との人事交流を図りながらスペシャリスト、ゼネラリストを養成。

職員育成（主な研修）



育成方針：職場を離れて受講する研修（Off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（〇年目）は大卒程度を想定したものです。注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。